

伊勢湾貧酸素情報（第 2 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

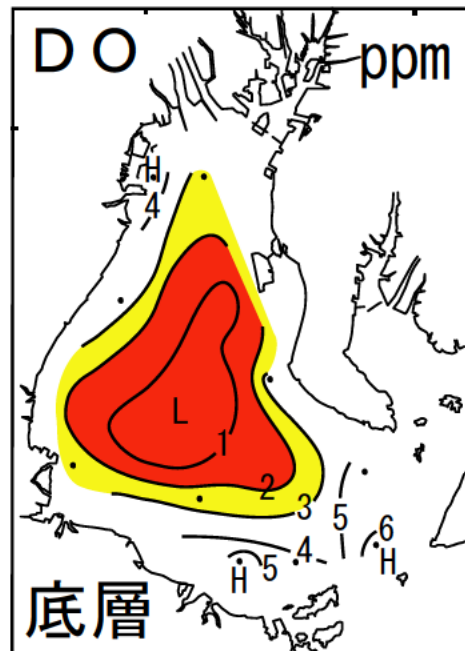
伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾中央部を中心に 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

7 月 5 日の調査結果

7 月 5 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 22.3～25.0℃，10m で 20.5～22.3℃，底層で 18.2～22.5℃の範囲にあり，表層，10m では平年並からやや高め，底層では平年よりやや高めとなっていた。塩分は表層では 14.82～29.60，10m で 29.86～31.95，底層で 27.52～33.29 の範囲にあり，表層では平年並，10m と底層では平年よりやや低めとなっていた。DO（溶存酸素量）は表層で 6.5～10.2ppm，10m で 4.4～7.0ppm，底層で 0.3～6.0ppm の範囲にあり，表層では平年よりやや低め，10m では平年よりやや高め，底層では平年並であるが，湾中央部を中心に 2ppm 以下の貧酸素水塊が先月の観測時より拡大していた。

今後水温の上昇に伴って、底層の貧酸素化が進行して貧酸素水塊が拡大すると予想されるので、貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。

今回の調査では、鈴鹿市沖から空港島にかけての湾奥の表層ではスイトマ sp. を優占種とする珪藻の赤潮が発生していた。



底層貧酸素水塊分布